

「カノープスに挑む(7)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

大晦日の晩、ついにカノープスを写真に撮ることはできなかった。写真どころか、目で見ることもできなかった。このまま尻尾を巻いて帰るのは、誠に悔しいので、見えていたいろいろな星座を撮影してから帰ることにした。

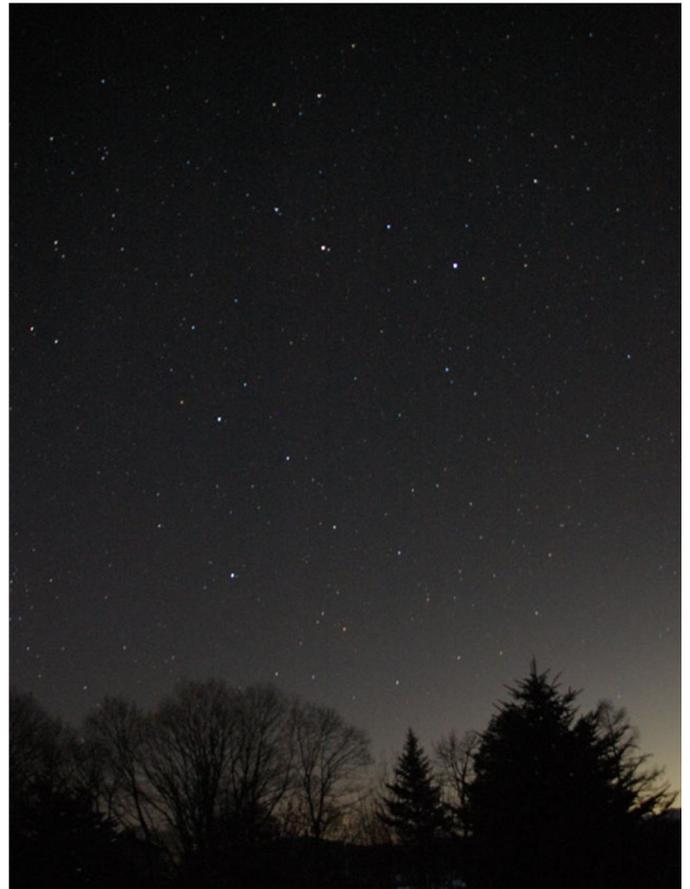
時刻は0時を過ぎ、すでに2017年になっていた。本来は冬の星座が見える時間帯だが、すでに春の星座が見え始めていた。春の星座といえば、ふたご座、かに座、おとめ座などを思い浮かべる。しかし忘れてはいけないのが、「北斗七星」である。



「昇る北斗七星」 2017年1月1日 午前0時過ぎ
群馬県嬭恋村仙之入 中央の灯火は農協の建物

北斗七星は、ほぼ一年中、夜間ならいつでも見える。北極星に近い所を日周運動しているからだ。しかし、春(3月~4月の20~21時頃)には、北東の空から昇ってくる形になる。ちょうど柄杓を立てたように、大変形が良く見えるのである。冬でも、夜遅い時間帯になれば、春の20時頃と同じ恒星の並び方になる。この日は北斗も美しく見えていた。

もう一つの代表的な春の星座が「しし座」である。しし座の魅力は、東の空から、まさに獅子が飛ぶように昇ってくる様子である。



「昇るしし座」 群馬県嬭恋村仙之入

しし座は、相当に星座に詳しくない方でも、簡単に見つけることができる。まず、一等星のレグルスを見つける。北斗七星の右側の少し離れたところだ。そのレグルスを下にして、「逆?マーク」の星の並びが見つかる。その形状から「春の大鎌」と呼ばれている。



上の写真を見て、東の空から大きな獅子が斜めに昇ってくる様子を、思い浮かべられるだろうか?

カノープスの撮影はできなかったが、この土地の星の美しさは堪能できたと思う。